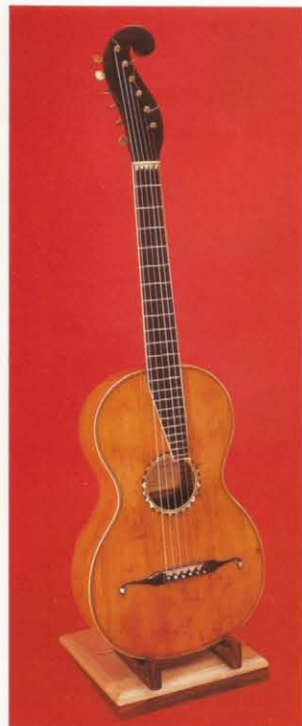
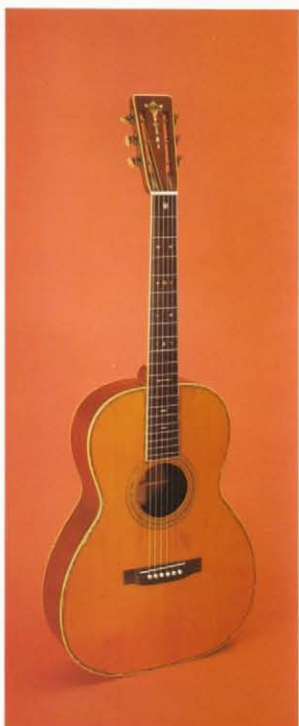


Est. 1833

1833年創立以来、これまでに40万台以上のマーティンギターが世界中のプレイヤーの手にわたりました。この間には、トラディショナルなモデルに加えて数多くのニューモデルが次々と誕生しています。60年代にはD35、D41、そしてD45のリ・イシュー。70年代にはブリウォーD28の再現としてHD28。そしてM38、HD35、M36。最近ではD25K、D25K II、D37K、D37K IIと意欲的に新しいコンセプトをもったギターが発表されています。このようなニューラインアップとともにみのがせない点は、マーティン社が決して現状に満足することなく、あらゆるディテールの改良と時代のニーズに応じたマイナーチェンジをかかえていることです。ブリウォーD28は、いわゆるヴィンテージギターとして知られるものですが、81年製D28もモダンマーティンギターとしてベストクオリティのギターといえるでしょう。詳しくはトカイ特製マーティンカタログ500円(〒200円)をお読みください。なおマーティンギターご購入の際は東海楽器の保証書と保証書がついているかどうかを必ずお確かめください。これは東海楽器がマーティンギターを責任をもって販売していること、一年間の災害保険がついていることを証明するもので万が一の場合の修理・調整も安心してご依頼ください。修理にはすべてマーティン純正パーツを使用しています。保証カードがついていないマーティンギターの修理・調整は受けつけていませんのでご注意ください。マーティンギターはトカイ製品取扱店にてお求めください。



1834年製シュタウファーモデル



1930年製00-45

D-18	¥ 280,000
D-19	¥ 300,000
D-28	¥ 350,000
D-35	¥ 370,000
D-41	¥ 350,000
D-45	¥ 880,000
HD-28	¥ 410,000
HD35	¥ 430,000
M-36	¥ 370,000
M-38	¥ 440,000
OM-45	¥ 880,000
D-25K	¥ 350,000
D-25K II	¥ 370,000
D-37K	¥ 380,000
D-37K II	¥ 400,000

D-18S	¥ 350,000
D-28S	¥ 400,000
D-35S	¥ 420,000
D-45S	¥ 1,030,000
D-18STorL	¥ 310,000
D-28STorL	¥ 380,000
D-35STorL	¥ 400,000
018	¥ 320,000
0018	¥ 340,000
0021	¥ 380,000
0045	¥ 960,000
00018	¥ 340,000
00028	¥ 380,000
00045	¥ 960,000
D-12-18	¥ 310,000

D-12-28	¥ 380,000
D-12-35	¥ 400,000
D-12-41	¥ 620,000
D-12-45	¥ 1,030,000
016NY	¥ 320,000
0016C	¥ 340,000
0018C	¥ 370,000
0028C	¥ 410,000
N-10	¥ 360,000
N-20	¥ 430,000
5-18	¥ 320,000
0	¥ 150,000
3	¥ 180,000
1-T	¥ 200,000
51	¥ 220,000



CF Martin Old & New

マーティンギターのこれまでに行われた数々の改良、変更のなかでも特に目立ったチェンジングポイントについて述べてみましょう。●ロゴマーク：ギタリストあこがれの金文字、CF Martin & Co. EST.1833はスクエアヘッドとともにもっともマーティンらしさを感じさせるものです。これは1935年にはじめて採用されたもので、それまではほとんどが焼印を押しただけのものでした。●ブレイシング：1800年代半ばマーティン社は独特のXブレイシングシステムを開発しました。音響的にも強度的にも素晴らしいもので、マーティンギターばかりでなくアコースティックギターそのものの発展に大きな影響を与えています。このオリジナルXブレイシングはいわゆるスキャロップドブレイシングでしたがスチール弦の普及によりハイゲージのテンションにも耐えられる構造が必要となり、1944年(serial No.89226)からは、現在も続いているプレーンなXブレイシングが採用されています。その結果、サウンドはよりパワフルになり圧迫的な支持を得ました。また近年P.A.システムの使用が一般化し、再び軽いスケールのよいギターが多く弾かれる状況のなかでマーティン社もHDモデルやMモデルにスキャロップドブレイシングを復活させ、プレーヤーのニーズに応じています。キャッツアイギターでは全機種にXブレイシングを採用、さらにCE800、CE1500、TシリーズなどにはスキャロップドXブレイシングを採用、ハイグレードなシリーズとなっています。●ブリッジ：ブリッジはギターサウンド特性を決定するメインファクターです。マーティン社でもブリッジに関しての研究はもっとも充実しており、これまでに何度もマイナーチェンジを行っています。マーティン社創立当時から現在まで一貫した点はクラシックギターをのぞいて、ブリッジピンによって弦を固定するというアイデアを採用していることでしょう。初期においてはC.F.マーティンの師であるシュタウファーのギターに採用されていたものをコピーしたスタイルでした。その後1929年まで採用されていたのが両端にピラミッドタイプの装飾を施したポイントドブリッジで、当初アイボリーとエボニーが使われていました。1920年代にはほとんどエボニーのみの採用となっています。キャッツアイギターではこのポイントドブリッジをCE2500Tにオプションとして採用しています。そして、1930年代以降現在まで、ほとんどのギターに採用されているのが有名なベリーブリッジです。1965年までスライド式のロングスロットタイプでしたがリペアーや調整の容易さが求められ現在のショートスロットブリッジに変更されています。キャッツアイギターCE1500、CE2000T、CE1200Tなどのヴィンテージモデルにはかつてロングスロットブリッジが採用されオーセンティックな雰囲気を再現しています。●ピックガード：マーティン独特のティアドロップスタイルピックガードはスティール弦、ピックの使用が普及した1930年代にオプションとして採用されたドレッドノートギターの人気とともに標準仕様となりました。まれにタータスジェルのピックガードが使用されたようですが、ほとんどはタータスジェルのセルロイドであり1967年にはアセテートのブラックピックガードになりました。キャッツアイギターCE400・CFは人気の高い変更直前のD18を再現したもので、バインディングもタータスジェルのタイプを採用しています。その他のCFシリーズは1970年代のマーティンをレプリカしたものでピックガードなどへの深い配慮もみられません。●フラワーポット/トーチインレイ：今世紀には、マーティン社はスタイル45ギターのラインアップとともに、そのベグヘッドにフラワーポットインレイを施しました。ヴィンテージマーティンを象徴するこのインレイも1930年代にはいつて縦ならびのC.F. Martinの社名インレイに変わり現在はD41、D45に使われています。キャッツアイギターではハイグレードなモデルにオリジナルフラワーポットインレイを採用しオーセンティックな雰囲気を再現しています。●ヘリンボーン：19世紀末から1946年(serial No.98233)までのスタイル28のボディトリムに採用された祖国ドイツのゆずりの寄木細工がいわゆるヘリンボーンです。現在、ヘリンボーン28のリ・イシューとしてHD28が発売され再び脚光をあびています。キャッツアイギターではヴィンテージレプリカのCEシリーズで、オールドD28モデルのCE800、CE1500に、およびCE1000、限定生産のCE1000・Sに採用しています。このヘリンボーンがスロットタイプアモンズインレイとともにブリウォーD28の最大のポイントとなっています。



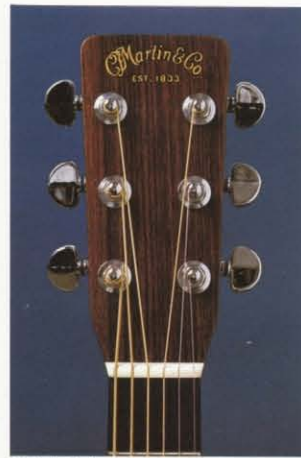
スプレイン



スプレイン



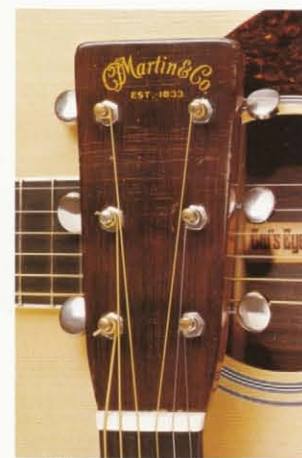
スプレイン



スプレイン



スプレイン



スプレイン